

平成28年度

9月 全校集会

2016.9.5.MON

要田小学校





登美（とみ）おばあちゃん





てんごく

ねんがじょう

天国からの年賀状

敬老(けいろう)の日(9.19)



敬老（けいろう）の日：9月19日（月）

- 1951年、「としよりの日」でスタート。
- 1964年、「老人（ろうじん）の日」
- 1966年、「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」
9月15日：「敬老の日」
＜国民の祝日＞
- 2001年、9月15日「老人の日」
9月15日から1週間：「老人週間」
- 2003年、9月第3月曜日：「敬老の日」
＜ハッピーマンデー制度＞



田村市要田地区敬老会





代表児童 作文発表



【2年：
「はたらきものの
おばあちゃん」】

2016/9/5

【4年：
「ぼくの
ひい おばあちゃん
とおばあちゃん」】



【6年：
「ぼくの家族」】





ある学校のA先生のおはなし

A先生の父親は、A先生が6歳（小学校1年生）の時に病気で亡くなりました。36歳の若さでした。

それからA先生は、兄弟2人母親一人に育てられました。

高校卒業後、大学に行くためのお金がなく非常に苦しい時に、祖母（父方の祖母）からの助けがあり、2人の兄弟は大学へ進学し勉強を続けることができました。

兄弟は大学を卒業し、一人はサラリーマン、一人は学校の先生になりました。

A先生は、祖母が大好きで、休みの日になると祖母の家に遊びに行きました。独身時代も結婚してからも。遊びに行くと必ず話してくれたことは、父親のことだったそうです。中学校を卒業して家業の商売をついで祖母を助けたことなど、A先生の知らない父親の姿をいつも話してくれたそうです。行くたびに同じ話だったようですが…。

ある学校のA先生のおはなし

A先生の祖母は、90歳を過ぎてても元気で働いていました。
「120歳まで生きるんだ。」と話していたそうです。

しかし、1995年1月にかぜをこじらせて入院しました。
その年の3月8日の朝方、93歳で、A先生の父親（息子）のもとへ旅立ちました。

祖母が亡くなってから6年たった2001年のお正月、A先生のもとに亡くなった祖母からの年賀状が届いたのです。

6年前に亡くなったはずの祖母から…。

1985年9月、茨城県では「つくば万博」が開かれていて、A先生の祖母も見学に行きました。その中で、15年後に届く「年賀状」を購入し、A先生に出したのでした。





天国からの年賀状

当時A先生は25歳、会津の小さな中学校で先生をしていました。2ヶ月に1度くらいは実家に帰り、祖母の家にも遊びに行っていたそうです。まだ独身でした。

A先生に送られた年賀状には次のようなことが書かれていたそうです。

この年賀状が届く頃には、〇〇は結婚して子どももいて、幸せな暮らしをしていることと思います。仕事も順調のことでしょう。…
家族を大切にしてください。母親を大切にしてください。まわりの人への感謝の心を忘れずに生活してください。



天国からの年賀状

当時83歳の祖母が自分のことをこんなにまで心配してくれていたことを知ったA先生は、この「**天国からの年賀状**」を読んで涙を流したそうです。大好きだった祖母からの、6年前に亡くなった祖母からの思いもよらぬ最高のプレゼント、「一生の宝物」と話していました。

9月19日（月）は「敬老の日」ですが、A先生は22日に祖母のお墓に行ってお話をしてくると言っていました。現在の生活のこと、家族のこと、仕事のこと、今までいろいろな人に支えられてやってこれたこと、などなど。

そして、「これからも『感謝の心』を常にもって生きていくので、見守ってください。」とお話してくるそうです。





自分の番 いのちのボタン（相田みつを）

自分の番
いのちのボタン

父と母で二人
父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうしてかぞえてゆくと
十代前で千二十四人
二十代前では――？
なんと百万人を越すんです

過去無量の

いのちのボタンを受けついで

いまここに

自分の番を生きている

それが

あなたなのいのちです

それがわたしの

いのちです

みつを

